

南半球便り（その 32）：ロックダウン延長

9 月 8 日

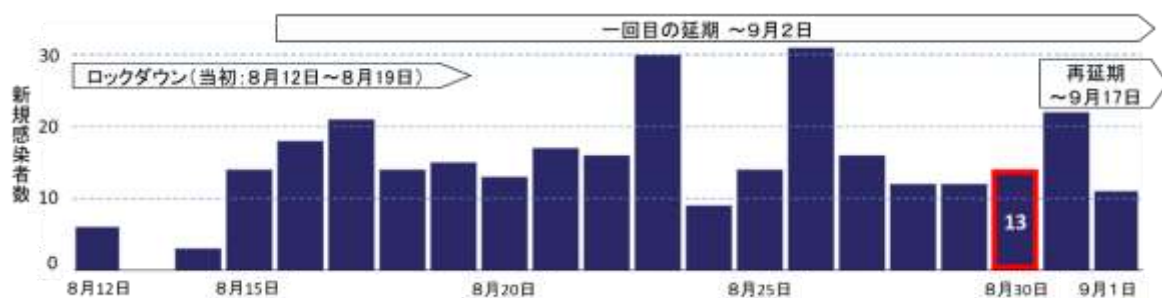


長引くキャンベラのロックダウン

キャンベラが所在する首都特別地域（ACT）では、9 月 2 日にはロックダウンが終了し、晴れて自由の身になると思っていただけに、再度の延長はショックでした。さらに二週間延長で 9 月 17 日深夜まで。何があったのでしょうか。

1. ゴールポストの移動

シドニーがあるニュー・サウス・ウェールズ州やメルボルンがあるビクトリア州での例を見ると、感染者も少なくなく、ロックダウン期限の再延長は珍しいことではありません。ACT でも新規感染者数がなかなか減らなかったで、再延長はある程度予想されてはいました。しかし、再延長決定日（8 月 31 日）に発表された前日の感染者数は 13 人。日本の感覚からすると当局の対応が厳しいことになりありません。



ACT の新規感染者数の推移

「3日から自由に外出ができるのでは。」という期待もあったので、こうなると、カラに近くなりつつある冷蔵庫・冷凍庫の補給が急務です。髪は千々に乱れ、「落ち武者状態」(笑)ですが、散髪は当面あきらめるしかありません。

2. ロックダウンの陰の部分

コロナ禍への対応に当たって、ロックダウン下での行動など、日本人以上に各種規制を遵守してきたと言われるオージー。しかしながら、最近に至って種々の問題が指摘されつつあります。

大きな問題のひとつは、失業。大きな影響を受けている事業者に対しては一週間当たり1,000豪ドル~10万豪ドル(日本円で約8万円~約800万円)の経済支援が提供されるほか、収入が減少した個人への給付(週200豪ドル~750豪ドル(1.6万円~6万円))もあります。他方、コロナ禍の経済活動の停滞により、統計に表れない失業者の増加がつつと指摘されています。直近7月の統計上の失業率は4.6%と低い水準であるが、ロックダウンによる影響を加味した実質的な失業率は6%程度との見方をしているエコノミストもいます。

もうひとつの大きな問題はメンタル・ヘルス。ロックダウン下では同居の家族及び認定された世話人との交流しか認められないため、別居中の両親、子供、孫など、人との関わりが極端に少なくなることに伴い、孤独感・疎外感を覚える人が増えています。



豪州政府が作成した、コロナに関連したメンタル・ヘルスへの注意喚起のための広報用コンテンツ例
(30以上の多言語で作成されているものも多い)

豪州らしい問題としては、海外在住の豪州人が帰国したくてもできないとの問題が長く指摘されてきました。コロナの蔓延に伴い、航空便が著しく減便・高額化したこと、帰国後の隔離場所の収容能力等が原因として指摘されています。今なお、3万8千人（7月末時点）の帰国を希望する豪州人が外国に留め置かれているとの数字があります。

3. 高まる反発

これらの問題を背景として、シドニーやメルボルンではロックダウン反対のデモが行われ一部が暴徒化したことは日本でも報じられたとおりです。

豪州が、今までコロナ禍に対して世界の大半の国よりも遙かに上手く対応し、感染も被害も異例の低い水準で抑えてきたことは間違いありません。デルタ変種の出現と、止まるところを知らない猛威により、状況が新たな局面に入り、豪州国内の空気も変わってきているのです。

4. 「コロナ・ゼロ」か「コロナとの共存」か？

そこで、現在繰り広げられている議論は、あくまでもコロナの撲滅、感染者ゼロを目指して「モグラ叩きの」対応を続けるのか、「コロナ・ゼロ」は非現実的であるとして、むしろ「コロナとの共存」を進めていくのかとの議論です。

ニュー・サウス・ウェールズ州やビクトリア州といった大都市を抱え感染者が引きも切らない州と、西オーストラリア州やクイーンズランド州のように感染者数が極めて少なく他州との人的移動の制限に熱心な州との間では、大きな意見の相違があります。



各新聞紙でも連邦政府の意見と各州の意見とが交差

また、州境や国境の開放を通じて経済活動の速やかな回復を目指す連邦政府と、州民の健康確保を最優先する一部州との間でも意見の相違があります。

こうした立場の差を埋めるべく議論が交わされています。

5. 希望の光明

そうした中で興味深いのは、モリソン首相率いる連邦政府が「コロナとの共存」に舵を切りつつあることです。とりわけ、ロックダウンが相次いで人心が消沈し、経済活動が停滞してきたダメージを回復すべく、国民に対して将来の「出口」を具体的に提示しつつあるのは、多くの国にとって参考になる展開です。

すなわち、コロナ禍からの脱却の道はワクチン接種の進捗によるとして、16歳以上の人口の70%、80%が接種を終える段階を規制緩和の一里塚として、「国家内閣」（連邦政府の首相と各州の首相とで構成する合議体）の場で決定したのです。

(参考) [豪州政府の新型コロナ感染症からの出口戦略（国家計画）](#)



ワクチン接種を終えたモリソン首相（出典：Twitter @ScottMorrisonMP, 2021年3月14日）

それによれば、70%の接種率に至れば一部規制（入国者数の制限緩和や隔離要件の緩和などが想定されている）を解除し、80%に達すればロックダウンの導入は止める、あるいは極めて限定的に実施することになっています。

6. 今後の展開

現在の見通しでは、豪州全体として80%の閾値に達するのは、11月中ごろ、したがってクリスマスの際には旅行制限も解除され遠く離れた親族間でも往来ができるようになるのではないかと希望的観測が出てきています。

その一方で、規制を緩めてロックダウンを解除した途端に感染者、さらには死者がうなぎ登りに増え、医療体制が追いつかなくなるのではないかと懸念の声も聞かれます。

このように今後の展開は予断を許さない状況です。

実は、9月下旬には、東京のオーストラリア大使館に在勤した経験者を公邸の庭に招待して、「お花見会」を予定しています。コロナで各種行事が次々にキャンセルを強いられてきた中、屋外でソーシャル・ディスタンスを確保しての、窮余の行事でもあります。豪州側関係者の強い期待もあり、是非ともロックダウンが解除され、桜が愛でられるようになることを祈念しています。



「お花見会」を開催できることを願って

山上信吾